

対象年度		令和 6年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート											
事務事業名		青少年教育推進事業						予算事業名		青少年教育推進事業費					
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	結城市民会議規約・市子ども会育成連合会 会則・市青少年相談員連合会会則					
				10	05	03	2001	経常経費							
総合計画体系		未来を担う子どもと 生き生きした市民を育む地域を目指そう						事業の区分		主要事業					
		生涯学習環境の充実と市民が誇れる芸術文化の創造													
		青少年の健全育成						担当課係等		生涯学習課 生涯学習係					
事業期間		継続 (年度～ 年度)													
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
次世代を担う青少年が、各種団体及び市が行う魅力ある様々な体験活動を通し、健全に成長していく。								昭和35年、結城市子ども会育成連合会発足 昭和56年、青少年育成結城市民会議設立							
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
青少年健全育成市民会議・結城市子ども会育成連合会・青少年相談員連絡協議会など、青少年の健全育成に取り組む団体に補助金を交付し、その活動を支援するとともに、広域で活動に取り組む団体等に負担金を支出し、近隣地域と連携を図りながら活動を実施する。								青少年及び青少年育成団体等							
								【事業をとりまく環境の変化】							
								少子高齢化、核家族化、情報化社会の進展により、青少年を取り巻く環境は大きく変化している。なかでも、少子化に伴い、子ども会自体が減少している。 なお、平成26年度に小山市と友好都市盟約を締結したことにより、教育面を含め、小山市との交流活動が活発になった。							
【令和 6年度 事業内容】				【令和 7年度 事業内容】				【令和 8年度 事業内容】							
・ 青少年育成各種団体へ補助金交付 ・ 青少年育成結城市民会議への支援 ・ 子ども会育成連合会への支援 ・ 青少年相談員連絡協議会への支援 ・ スクールサポーターの派遣 ・ 広島平和式典への中学生派遣				・ 青少年育成各種団体へ補助金交付 ・ 青少年育成結城市民会議への支援 ・ 子ども会育成連合会への支援 ・ 青少年相談員連絡協議会への支援 ・ スクールサポーターの派遣 ・ 広島平和式典への中学生派遣				・ 青少年育成各種団体へ補助金交付 ・ 青少年育成結城市民会議への支援 ・ 子ども会育成連合会への支援 ・ 青少年相談員連絡協議会への支援 ・ スクールサポーターの派遣 ・ 広島平和式典への中学生派遣							
■事業費															
				R04年度		R05年度									
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0								
	県		支	出	金	0	0								
	地		方		債	0	0								
	そ		の		他	0	0								
	一		般	財	源	1, 628	2, 950								
歳 入 計 (千 円)				1, 628		2, 950									
歳 出 内 訳	節 (番 号 + 名 称)			金額 (千円)		金額 (千円)									
	07 報償費			249		384									
	10 需用費			8		11									
	11 役務費			31		65									
	12 委託料			8		0									
	13 使用料及び賃借料			16		17									
	18 負担金補助及び交付金			1, 316		2, 473									
歳 出 計 (千 円) (A)				1, 628		2, 950									
伸 び 率 (%)						81. 20									
備 考															

令和 4年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R04年度	R05年度	R06年度
活動 指標	開催を支援した事業数	事業	目標	9.00	9.00	9.00
	青少年育成結城市民会議・青少年相談連絡協議会・子ども会等各種団体へ支援を行い実施した事業数		実績	7.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	開催支援事業参加人数	人	目標	800.00	800.00	800.00
	開催を支援した事業に参加した延べ人数		実績	614.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	本市の将来を将来を担う青少年の健全育成は不可欠な事業である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	各種団体が、それぞれの特徴を活かして主体的に活動を実施している。
	手段の妥当性	A 妥当である	ケーブルテレビを活用した事業や広く便益を与えられる事業を展開している。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらも言えない	即効性のある活動は少ないが、青少年の育成に係る事業であるため、地道に継続することが必要である。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	事業範囲は、市内全域にわたり、概ね公平に便益を与えられている。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	青少年教育の重要性について、地域と学校が一体になって考え、取り組むことによって成果が向上している。
進捗度	事業の進捗	B どちらも言えない	2ヶ年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業は軒並み中止となったが、4年度においては、ほとんどの事業が規模を縮小しながら行うことができた。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
各種団体においては、事業を通して連携強化を図りながら、効果的な事業実施の支援に努めている。 新型コロナウイルス感染症により、人と人とが接する団体活動や学びの機会が失われているので、例年同様の事業実施難しくなっている。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
新型コロナウイルス感染症等などの状況に応じながら柔軟に対応した事業を行い、団体・関係機関との連携を一層強化し、事業内容・日程の調整などを行い、青少年関係事業が効果あるものにする。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
方向性の具体的内容 少子化や新型コロナウイルス感染症の影響により子ども達同士で遊びながら、ともに成長していく環境や機会が減少しているため、青少年を取り巻く環境の変化に柔軟に対応しながら、青少年の健全育成に適した事業や活動を実施していく必要がある。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり